

作品シリーズ解説
中ザワヒデキ年譜
出品目録

作品シリーズ解説

灰色絵画

三原色の断片で埋め尽くされた、うるさい程鮮やかな絵画が〈灰色絵画〉とはどういうわけでしょう。どれだけ目を凝らしても灰色は見当たりません。灰色で着色された形跡は、ただの1点もないのです。

少し見方を変えてみましょう。まず絵画は目で味わうものだという前提を、一旦取り払っていただきたいのです。そして想像してみてください。この3色をすべて混ぜたらどうなるかを。答えは「灰色」です。

このシリーズはすべて、色の三原色であるシアン、マゼンタ、イエローが1 : 1 : 1になるように画面構成されています。違うのはその配置法です。各色のマス目が並ぶ、その規則性に微妙な変化がつけられています。混ぜればまったく同じ灰色になる計算です。

マスのひとつひとつはこの絵の画素です。画素とはデジタル画像を構成する、色情報を抱えた単位要素のことです。この画素が小さいほど画像もキメ細やかになり、逆に大きいと画像も粗くなり、色のつぶつぶが目につくようになります。点描技法を用いた絵画は、間近で見ると点がはっきりと見えますが、ある一定の距離を置くとそれぞれの点の色が混ざりあって見えます。この〈灰色絵画〉も、画素がもっと小さければ目の網膜上で混色され、灰色を認識することができたでしょう。しかしそれには画素が大きすぎました。脳で混色して見る「灰色」の絵画なのです。



fig.1
目の冒険
脳で見るアート 5
『朝日新聞 be』
2007年2月4日

脳内混色絵画

〈灰色絵画〉シリーズと発想は同じですが、結果に少しバリエーションが出ました。シアン、マゼンタ、イエローの比率が1 : 1 : 1ではありません。いずれか1色が他色の2倍量の配分であるため、灰色は灰色でも微妙に色味が違ってきます。

ここで紹介する2点を見てみましょう。タイトル後半のアルファベットはそれぞれ、Cがシアン、Mがマゼンタ、Yがイエローの頭文字です。おのおの後に続く数字はその色の割合です。例えば《脳内混色絵画 C1M1Y2 #6》は1 : 1 : 2、つまりイエローの比率が高いため、黄味がかった灰色、《灰色絵画 C2M1Y1 #6》は2 : 1 : 1、シアンが強いため水色に近い灰色になります。もうひとつ、マゼンタが強く赤紫がかった灰色を作る1 : 2 : 1比率の作品も制作されています。

しかしそれぞれの灰色の微妙な違いは、視覚では感じるできません。脳内で混色されて初めてその色を味わうことができるのです。

セル

「セル」は細胞を意味します。このシリーズを構想する段階で制作していたいくつかの作品には、「同形積層」というタイトル案があったといえます。むしろ細胞分裂の様子を描いたふうにも見えますが、制作上の理屈としては「蓄層」の方が正しいようです。

各タイトルのカッコ内にあるカタカナは使用した色の名前を省略して表記したものです。例えば《セル（グリーン・ミスト・パーマネント、3）》は、グリーン・グレイ No.1、ミスト・グリーン、パーマネント・グリーンで描かれた事実を、至って簡潔に書き連ねたものです。そしてこの並び順が、すなわち塗り重ねた色の順番でもあります。地の色に始まり、画面の半分を占める大きなセル、次にその片側半分に収まるサイズのセル、さらに…とセルのフォルムを重ねていった、その軌跡がそのままタイトルになっているのです。まったくもって事務的なタイトルの付け方ではありませんか。

ところがです。一切の叙情性を排除したこのタイトルにして、迸るこの色彩的パッションは何でしょう。この二面性にこそ、この作品の真の魅力があるのかもしれない。

単色の分割

惜しみなく色彩を放出した〈セル〉シリーズに対して、本シリーズはたった1色の絵具の重なりで構成されます。血と肉を連想させる真っ赤な絵具の海の中で、細胞分裂という生命の営みが粛々と進んでいくようにも見えます。

1色で描き進めた事実を端的に表したシンプルなタイトルの無機性と、惜しみなく塗りこめられた赤の情熱とのギャップは、〈セル〉シリーズに通じるものを感じさせます。中ザワ自身は両者の違いについて、「印象派の筆触分割と色彩分割を



fig.2
《セル（グリーン・ミスト・パーマネント、3）》
（図版6）の裏面。
塗り重ねた色の名がその順に、
日付とともに記されている。



fig.3-a,b,c,d,e,f
《セル（ローズ・ウルトラ
マリン・イエロー、5）》
（図版24）を含む
三部作の制作過程。
定めたルールに沿って、
作業は粛々と進められた。

徹底するとやがて点描から画素になるわけだが、それを細胞分裂のかたちで三色で分割していったのが〈セル〉、色彩分割は無しとし筆触分割だけでがんばってみたのが〈単色の分割〉」だと述べています。ここで言う「筆触分割」とは、絵具をペインティングナイフでのせた層と、筆で塗った層を交互に重ねていった作業を指します。〈セル〉の延長線上に連なりながらも、より一層生命力を帯びたこれらの作品は、中ザワ最新のシリーズとなるものです。

盤上布石絵画

囲碁のルールに通じた方なら、これが穏やかならぬ状況であることにお気づきではないでしょうか。ただでさえ、目の多すぎる碁盤上に碁石が犇めきあっているのですが、よくよく見れば、その戦局も両者ともに抜き差しならぬ状況にあることがわかります。

囲碁は白と黒の碁石を使った陣取り合戦です。相手の石を取り囲めばそれらを取り上げることができます。交互に石を打ちながら、この機会を狙っていくのですが、このときしばしば、「セキ」と呼ばれる状態が部分的に生ずることがあります。これはお互いに、自分から先に打てば次に自分の石がごっそり取られてしまうことがわかりきっているため、どちらからも打つ事ができない状況のことです。

これらの作品では、盤上一面セキの海、極限まで緊張の高まった状態にあります。通常囲碁の試合ではこのようなことはまず起こりません。

これをあえて作品にすることで中ザワが表現したかったのは、「点と線のちょうど中間」です。相手の石を取り囲み陣地を得ることにより初めて有効性をもつ線となることも、取り去られることでただの碁石=点に帰することもありません。線でもない、点でもない状態を、筆で描く絵画の世

界では如何様にも表現できてしまいます。見る人の判断基準にも左右されるため非常に曖昧です。

「盤上布石」の技法を使えば、論理的に的確な「中間」を示すことが可能となるのです。



fig.4
目の冒険
脳で見るアート9
『朝日新聞 be』
2007年3月4日

シリョクヒョウ

現役の眼科医であった1988年に描かれた〈シリョクヒョウ〉シリーズ。一見カラフルでテンションの上がる作品ですが、その配色は至ってシンプルです。白地に黒でランドルト環などが記された《シリョクヒョウ》は、5色の正方形*が画面上部に整然と並ぶだけで、創造性の極力排除された構図に見えます。視力表の体裁を失わないこの制約の中でこれだけオリジナリティを押し出せるというところに、中ザワの遊びの才能とそのクオリティの高さが表れています。

当時上司であった眼科教授から、「医学に進む」のか「美術に進む」のか二者択一を迫られ、「両立」の意志を表明するつもりで描いたのだそう。そんな、かなり切実なはずの動機さえも、みずからパロディ化して楽しんでしまっているようです。

《シリョクヒョウ（赤）》は文字通り赤がメインの毒々しい色彩であるうえに、視力計測の基準となる記号が妙にコケティッシュですが、ほどよい“ふざけ”と“適当さ”がこれを見事に中和させ、絶妙なバランスを保っているのです。

*実際には大小の点の集合体。色盲検査に用いられる。

アナグリフの穴

赤青2色のセロファンメガネで見るアナグリフ画像というと、懐かしいと感じる方も多いことでしょう。一昔ほどではありませんが、今でもときどき目にすることがあります。よく、こども向け雑誌などの付録にも採用されています。

ご紹介するのは、1993年に東京都写真美術館で開催された「映像工夫館展 3D LOVE ～立体視への招待～」で展示された〈アナグリフの穴〉シリーズ6点のうち3点です。当時の展示法は、人ひとり入れるほどの箱を設えた内側（壁4面、床、天井の計6面）にそれぞれの作品を張り巡らすというもので、中に入った鑑賞者はこれらに取り囲まれるかたちとなり、3Dの世界にどっぷり浸かることができました。

今回はこの3点をガラスケースに納め、目隠しシートに穿たれた穴から覗き見るようにしてみました。赤青セロファンの貼り込まれた穴から見れば立体画像が目飛び込んできます。そうでない普通の状態は、何も貼らない穴から確認することができます。

脳波ドローイング

数値を淡々と記録し続ける震度計や温湿度計を想起させる、一見ドライな線の連なり。人間の作為とはまるで無縁の代物と思いきや、これこそ究極の作為性を孕んでいるのです。

人は手で絵を描きます。頭に浮かんだイメージは、手を動かすことで初めて画面に描出されます。

ここで問題なのは、頭で考える理想の絵画と、現実には手で描くことのできる絵画にはギャップが生じることです。つまり技量の限界など何らかの要因で理想の実現が阻まれ、思い通りに描けないことがあります。このとき生じた葛藤のために、画家はときにスランプに陥ることさえあります。キャンバスに描きだされる線は、真に本質的とはいえないのかもしれませんが。

ならば手を介さなければよいのです。意思をそのまま紙に落とせば、そうした煩わしさから開放されます。中ザワ自身の脳の動きをダイレクトに記録したこのシリーズは、最もストレートな芸術のかたちであるといえます。

それにしても、脳波計により計測されるのではなく、計測させてやるという態度は何とも不遜ではありませんか。これはある意味で、医療テクノロジーへの挑戦といえるかもしれません。



fig.5
目の冒険
脳で見るアート 12
『朝日新聞 be』
2007年3月25日

中ザワヒデキ年譜



- 1963** 9月 | 新潟県新潟市に生まれる
- 1972** 12月 | 神奈川県平塚市に移り住む
- 1982** 3月 | 栄光学園高等学校卒業
4月 | 千葉大学医学部入学
- 1983** 第1期：アクリル画
10月 | 第4回日本グラフィック展入選
このとき「中ザワヒデキ」の名を初めて使用
- 1984** 1月 | 第1回クレセントイラストコンペ奨励賞
10月 | 第5回日本グラフィック展佳作
- 1985** 10月 | 第6回日本グラフィック展入選
- 1986** 4月 | 個展「中ザワヒデキ初個展」(4.10-22 ギャラリーアートワズ／東京)
12月 | 個展「Effe, Madge, Tina, Louise, Betty, Anita」(12.11-31 ギャラリーアートワズ／東京)
- 1988** 3月 | 千葉大学医学部卒業
4月 | 日本医科大学付属病院眼科医局勤務
10月 | 個展「火星人ヨサラバ」(10.27-11.8 ギャラリーアートワズ／東京)
11月 | 第9回日本グラフィック展入選
- 1989** 8月 | JACA '89 日本イラストレーション展入選
10月 | 『近代美術史テキスト』(トムズボックス) 刊行
- 1990** 第2期：パカCG
1月 | 個展「大ポケット」(1.12-19 HBギャラリー／東京)
4月 | 日本医科大学付属病院眼科医局を辞職、イラストレーターとして独立する
7月 | 第53回ザ・チョイス (『Illustration』誌上コンペ) 入選、翌年2月に第8回ザ・チョイス年度賞に選ばれる
- 1991** 3月 | 「電話網の中の見えないミュージアム」(3.15-29 NTT電話回線内) に参加
個展「パロディ・鷹作」(3.28-4.2 ギャラリーアートワズ／東京、3.29-4.3 HBギャラリー／東京)
9月 | 「Digital Sight デジタル表現の可能性」(9.14-10.16 O美術館／東京) に出品
- 1992** 3月 | 有限会社アロアロインターナショナル設立
11月 | 再現芸術集団「スモールビレッジセンター」に参加
- 1993** 6月 | 「3D LOVE ～立体視への招待～」(6.18-7.6 東京都写真美術館) に《アナグリフの穴》を出品
- 1994** 6月 | ライブイベント「ヘアライブ」を P3 art and environment (東京) にて開催 出演：EXPO+ 中ザワヒデキ
- 1995** この年 | 95年度マルチメディアグランプリMMAアーティスト賞受賞
インターナショナルデジタルメディアアワーズ ベストCD-ROM賞／ベストインターフェイスデザイン賞受賞 (カナダ)
9月 | ライブイベント「ヘアライブ2」をElectronic Cafe (東京) にて開催 出演：EXPO+ 中ザワヒデキ
- 1997** 第3期：方法絵画
肩書きを美術家とする
6月 | 個展「中ザワヒデキ展」(6.4-16 ギャラリーNwハウス／東京)
9月 | ポローニャで開催の「ARTE GIAPPONESE OGGI: MEDIA ART」に出品 (10月にミラノへ巡回)
秋 | SWATCH (時計) のFall-Winter Collectionのイラストデザインを手掛ける
- 1998** 3月 | 「Inter @ ction JAPON」(3.31-4.3 レオナルド・ダ・ヴィンチ大学／パリ) に出品
11月 | 「PICAF (釜山国際現代美術フェスティバル) 国際現代美術展」(11.1-30 釜山市立美術館／韓国) に出品
「目と耳—この狭い隔たりのなかに」(11.16-12.12 サイギャラリー／大阪) に出品
この年 | 「造形装置および方法」特許取得 (アメリカ)
- 1999** 5月 | 個展「中ザワヒデキ展」(5.26-6.14 ギャラリーNWハウス／東京)
7月 | 個展「大ポケット2」(7.19-31 ピンポイントギャラリー／東京)
この年 | 「三次元グラフィックス編集装置」特許取得 (日本)
- 2000** 1月 | 方法主義宣言を発表
9月 | 「メディアセレクト2000 レゾリューション—感覚の解像度」(9.15-24 名古屋ガーデン埠頭 20 号倉庫) に出品
10月 | 個展「中ザワヒデキ展」(10.10-8.31 佐野画廊／香川)
バンフ・アーティスト・イン・レジデンス (カナダ)
この年 | 「三次元グラフィックス編集装置」特許取得 (アメリカ)
- 2001** 1月 | 「メッセージ／言葉の扉をひらく」(1.26-3.20 せんだいメディアテーク／宮城) に出品
3月 | 「第6回北九州ビエンナーレー—このはじまり」(3.3-25 北九州市立美術館／福岡) に出品
4月 | 『西洋画人列伝』(NTT出版) 刊行
5月 | 個展「質量」(5.10-6.2 レントゲンクンストラウム／東京)
個展「金額 Part I」(5.18-6.9 ギャラリーセラー／名古屋)
6月 | 個展「金額 Part II」(6.15-7.7 ギャラリーセラー／名古屋)

- 10月 | 「ダイアログ2001／パンフ・レジデンシーの作家たち展」(10.3-31 カナダ大使館ギャラリー／東京) に出品
11月 | 個展「Method」(11.17-12.15 unit pitt gallery／カナダ)
この年 | 「造形装置および方法」特許取得 (日本)
- 2002** 3月 | 「映像体験ミュージアム—イメージネーションの世界へ」(3.1-5.19 東京都写真美術館) に出品 (巡回先: 倉敷市立美術館、[翌年] せんだいメディアテーク、福岡市博物館)
「プログラム・シード〈かたち〉の生まれる時」(3.8-24 京都芸術センター) に出品
4月 | 個展「金額Ⅱ」ギャラリーセラー (名古屋)
5月 | 「日韓現代版画展」(5.17-6.9 ギャラリーOm／神奈川) に出品
10月 | 個展「回路」(10.11-11.2 ギャラリーセラー／名古屋)
個展「集合」(10.21-11.9 サイギャラリー／大阪)
11月 | 文化庁在外派遣芸術家研修のため渡米、アーティスト・イン・レジデンスISCPに参加し1年程ニューヨークに滞在する
- 2003** 3月 | 「VOCA展2003 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」(3.14-3.30 上野の森美術館) にて奨励賞受賞
8月 | 「Revolving Door: iscp-asia」(8.7-9.6 Chambers Fine Art／ニューヨーク) に出品
9月 | 個展「中ザワヒデキ展」(9.20-10.12 Goliath Visual Space／ニューヨーク)
- 2004** 1月 | 「MOTアニュアル2004 私はどこからきたのか／そしてどこへ行くのか」(1.17-3.21 東京都現代美術館) に出品
4月 | 個展「文章」(4.3-24 ギャラリーセラー／名古屋)
9月 | 「ICANOFメディアアートショー 第4回: 風景の頭部」(9.4-20 八戸市美術館／青森) に出品
11月 | 「財飾兼備—ART & MONEY」(11.1-12.22 ベイスギャラリー／東京) に出品
個展「中ザワヒデキの原点展: 1980年代アクリル絵画」(11.27-12.18 ギャラリーセラー／名古屋)
- 2005** 5月 | 個展「中ザワヒデキの展開展: 1990年から96年までのバカCG」(5.7-28 ギャラリーセラー／名古屋)
個展「芸術特許」(5.7-28 ギャラリーセラー／名古屋)
- 2006** 第4期: 本格絵画、新・方法、第四表現主義
1月 | 「DOMANI・明日」(1.20-3.1 損保ジャパン 東郷青児美術館／東京)
二人展「A Self-Organizing Map of Beauty: Hideki Nakazawa and Nicholas Knight」(1.26-3.9 Akus Gallery／アメリカ)
6月 | 個展「Gray Painting」(6.15-11.15 Tower 49／ニューヨーク)
11月 | 府中市美術館の公開パフォーマンスで《脳波ドローイング》を制作
- 2007** 2月 | 「「森」としての絵画: 「絵」のなかで考える」(2.10-3.25 岡崎市美術博物館／愛知) に出品
4月 | 「ART LAN @ASIA アジアの新☆現代美術!!」(4.21-5.13 横浜創造界隈ザイム／神奈川) に出品
個展「脳内混色絵画」(4.21-5.12 ギャラリーセラー／名古屋)
8月 | 個展「切手展」(8.4-9.9 奈義町現代美術館／岡山)
12月 | 個展「中ザワヒデキの全貌—記号と色彩の絵画」(12.28-1.7 Bunkamuraギャラリー／東京)
- 2008** 1月 | 『現代美術史日本篇』(アロアロインターナショナル) 刊行
「The Masked Portrait」(1.11-2.9 Marianne Boesky Gallery／ニューヨーク) に出品
9月 | 個展「オイルペインティング2008」(9.6-20 ギャラリーセラー／名古屋)
A STORY GALLERYに招聘され、北京市費家村芸術家工作室8号院にて滞在制作を行う
このとき制作されたのが《セル(ローズ・ウルトラマリン・イエロー、5)》含む三部作
11月 | 個展「中ザワヒデキ展」(11.15-30 画廊沖繩／沖縄)
- 2009** 5月 | 個展「madogiwa第6回企画展 中ザワヒデキ」(5.7-14 武蔵野美術大学2号館209号室)
7月 | 夏の個展2009第一部「数列・右肩上がり・文字」(7.29-8.8 ギャラリーセラー／東京)
8月 | 夏の個展2009第二部「芸術特許」報告展(8.19-22 ギャラリーセラー／東京)
夏の個展2009第三部(8.26-9.5 ギャラリーセラー／東京)
10月 | 「美術と文字 Art & Chinese Character」(10.24-11.21 Gallery 604／韓国)
「横浜国際映画祭2009」(10.31-11.29 新港ピア／神奈川)
- 2010** 3月 | 個展「「芸術特許」書籍刊行記念展」(3.14-4.11 3331 Arts Chiyoda／東京)
7月 | 二人展「マチエールについての考察: 草間彌生 1980s vs 中ザワヒデキ1990s」(7.2-17 ギャラリーセラー／東京)
9月 | 新・方法主義宣言を発表
- 2011** 11月 | 個展「かなきり声の風景」(11.15-12.2 ギャラリーセラー／東京)
- 2012** 9月 | 個展「Systems and Method in Hidden Functions」(9.10-12.10 The Container／東京)
12月 | 個展「中ザワヒデキ展 脳で視るアート」(12.8-2013.2.17 武蔵野市立吉祥寺美術館／東京)
- 2013** 1月 | 個展「単色の分割」(1.18-2.6 ギャラリーセラー／東京)

出品目録

	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵
1	灰色絵画 #1 (シアン、マゼンタ、イエローによる)	2005	油性溶剤デジタルプリント、 合成樹脂、アルミパネル	180.0×120.0	府中市美術館
2	灰色絵画 #4 (シアン、マゼンタ、イエローによる)	2005	油性溶剤デジタルプリント、 合成樹脂、アルミパネル	180.0×120.0	府中市美術館
3	灰色絵画 #8 (シアン、マゼンタ、イエローによる)	2006	油性溶剤デジタルプリント、 合成樹脂、アルミパネル	180.0×120.0	府中市美術館
4	脳内混色絵画 C1M1Y2 #6	2007	油性溶剤デジタルプリント、 合成樹脂、アルミパネル	71.1×71.1	ジョナサン・ハ ロウ氏
5	脳内混色絵画 C2M1Y1 #6	2007	油性溶剤デジタルプリント、 合成樹脂、アルミパネル	71.1×71.1	都築潤氏
6	セル (グリーン・ミスト・パーマネント、3)	2009	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
7	セル (ミスト・パーマネント・グリーン、3)	2009	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
8	セル (パーマネント・グリーン・ミスト、3)	2009	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
9	セル (オーロラ・ライト・ピオニー、3)	2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
10	セル (ライト・ピオニー・オーロラ、3)	2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
11	セル (ピオニー・オーロラ・ライト、3)	2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
12	セル (ゴールド・ピンク・ジंक、3)	2008,2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
13	セル (ピンク・ジंक・ゴールド、3)	2008,2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
14	セル (ジंक・ゴールド・ピンク、3)	2008,2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
15	セル (オーロラ・グリーン・ピュア、3)	2008,2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
16	セル (グリーン・ピュア・オーロラ、3)	2008,2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
17	セル (ピュア・オーロラ・グリーン、3)	2008,2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
18	セル (ピオニー・パーマネント・ウォーター、3)	2008,2009	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
19	セル (パーマネント・ウォーター・ピオニー、3)	2008,2009	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
20	セル (ウォーター・ピオニー・パーマネント、3)	2008,2009	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
21	セル (オーロラ・ミスト・パーマネント、3)	2008,2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
22	セル (ミスト・パーマネント・オーロラ、3)	2008,2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
23	セル (パーマネント・オーロラ・ミスト、3)	2008,2009,2012	油彩、カンバス	15.8×22.7	ギャラリーセラー
24	セル (ローズ・ウルトラマリン・イエロー、5)	2008	油彩、カンバス	181.8×270.3	ギャラリーセラー
25	セル (ウルトラマリン・イエロー・ローズ、5)	2008	油彩、カンバス	181.8×270.3	ギャラリーセラー
26	セル (イエロー・ローズ・ウルトラマリン、5)	2008	油彩、カンバス	181.8×270.3	ギャラリーセラー

	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵
27	セル (ゴールド・ミスト・ピュア、5)	2008	油彩、カンバス	45.5×53.0	ギャラリーセラー
28	セル (ミスト・ピュア・ゴールド、5)	2008	油彩、カンバス	45.5×53.0	ギャラリーセラー
29	セル (ピュア・ゴールド・ミスト、5)	2008	油彩、カンバス	45.5×53.0	ギャラリーセラー
30	セル (ピオニー・パーマネント・ウォーター、5)	2009,2010	油彩、カンバス	45.5×53.0	ギャラリーセラー
31	セル (パーマネント・ウォーター・ピオニー、5)	2009,2011	油彩、カンバス	45.5×53.0	ギャラリーセラー
32	セル (ウォーター・ピオニー・パーマネント、5)	2009,2011	油彩、カンバス	45.5×53.0	ギャラリーセラー
33	単色の分割 (ブライトレッド、S30)	2012	油彩、カンバス	91.0×91.0	ギャラリーセラー
34	単色の分割 (ブライトレッド、SMS)	2012	油彩、カンバス	22.7×22.7	ギャラリーセラー
35	三五目三五路の盤上布石絵画第一番	1999	アクリル碁盤、碁石	77.0×77.0× 36.5	ギャラリーセラー
36	三五目三五路の盤上布石絵画第二番	1999	アクリル碁盤、碁石	77.0×77.0× 36.5	ギャラリーセラー
37	三五目三五路の盤上布石絵画第三番	1999	アクリル碁盤、碁石	77.0×77.0× 36.5	ギャラリーセラー
38	三五目三五路の盤上布石絵画第四番	2013	アクリル碁盤、碁石	77.0×77.0× 36.5	ギャラリーセラー
39	三五目三五路の盤上布石絵画第五番	2013	アクリル碁盤、碁石	77.0×77.0× 36.5	ギャラリーセラー
40	シロクヒョウ	1988	アクリル、板	103.0×72.8	松前公高氏
41	シロクヒョウ (赤)	1988	アクリル、ポスターカラー、板	103.0×36.4	松前公高氏
42	シロクヒョウ (金)	1988	アクリル、板	103.0×36.4	松前公高氏
43	アナグリフの穴・右壁	1993	デジタルプリント	172.9×130.0	ギャラリーセラー
44	アナグリフの穴・前壁	1993	デジタルプリント	172.9×130.0	ギャラリーセラー
45	アナグリフの穴・左壁	1993	デジタルプリント	172.9×130.0	ギャラリーセラー
46	脳波ドローイング第一番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館
47	脳波ドローイング第二番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館
48	脳波ドローイング第三番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館
49	脳波ドローイング第四番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館
50	脳波ドローイング第五番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館
51	脳波ドローイング第十六番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館
52	脳波ドローイング第十七番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館
53	脳波ドローイング第十八番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館
54	脳波ドローイング第十九番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館
55	脳波ドローイング第二〇番	2006	インク、紙	24.5×300.0	府中市美術館

写真提供：府中市美術館（図版1～3）

写真撮影：黒川未来夫（図版35～37）

MGMフォートサービス（図版4～34）

中ザワヒデキ展 脳で見るアート

デザイン・編集：

有限会社アロアロインターナショナル

印刷・製本：

有限会社遠藤印刷

発行：

武蔵野市立吉祥寺美術館 ©2012